

あきたスギッチファンド通信



No. 16 2014年1月31日発行

特定非営利活動法人

あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

ファンドの寄付金受取状況

(25年4月～26年1月)

本ファンド	
団体寄付	2,939,511円
個人寄付	592,486円
合 計	3,531,997円
分野指定	
自殺予防	313,120円
合 計	313,120円
総 合 計	3,845,117円



11月1日～5日御所野のイオンモールで「秋田うまいもの市」が開催され、売上の一部があきたスギッチファンドに寄付されました。同様の「あきた地産地消まつり」が2月28日～3月2日イオンモールで開催されます。秋田のこだわりのうまいものが販売されます。ぜひお立ち寄り下さい。

スギッチファンドが発足して1月27日で満5年になります。設立総会で読み上げられた設立趣旨書には、「市民活動は本来、社会の硬直化を防ぎ、豊かな社会を実現してゆくものであることから、求められる活動は多岐にわたると思われまます。これらのニーズに応え、主体的な役割を果たしてゆくためには、市民活動団体の基盤を確立してゆくことが急務です。このことから、資金調達のための仕組みづくりを進めることが求められており、新たな社会システムとしてのファンドを立ち上げることにしました。」とありました。あの日の熱気がよみがえります。この5年間の実績をちょっと振り返ってみましょう。

5年間の寄付金受取実績

21年度	3,588,461円	22年度	2,985,371円	23年度	9,592,000円
24年度	4,680,704円	25年度	3,845,117円	合 計	24,691,653円

(25年度は1月末現在)

5年間の助成実績

(助成金としては、寄付金の他に秋田県からの補助金 14,100,000円や東日本大震災支援のための交付金 11,400,000円が含まれています。)

ファンドの種類	助成件数	助成金額
本ファンド	106	22,114,787円
分野指定ファンド	9	1,300,000円
" (東日本大震災避難者支援応援ファンド)	25	11,307,651円
冠ファンド	4	1,200,000円
" (三国こども支援ファンド)	16	4,456,371円
合 計	160	40,378,809円

5年間の実績を踏まえて、今後スギッチファンドをどう発展させていくかという重い課題が課せられています。また、助成金が団体の事業だけでなく団体の基盤確立にどのように資したのかを検証することも必要かと考えております。

スギッチファンドのさらなるステップアップのために、一層のご支援をお願い申し上げます。

(菅原 展子)

第10回（2013年度第2回）助成先決定

第10回あきたスギッチファンドの募集は、11月5日～12月5日に行われた。応募状況は下表の通りである。

応募状況一覧

ファンドの種類	募集件数	応募件数	採択件数
本ファンド 10万円コース	5	4	3
30万円コース	5	11	5
50万円コース	1	4	1
三国こども震災支援 10万円コース	2	0	
30万円コース	2	2	2
東日本大震災避難者支援 10万円コース	2	2	2
20万円コース	1	0	
30万円コース	2	0	

1月19日（日）、第10回あきたスギッチファンド公開審査会が遊学舎に於いて開催された。

当日選考委員のうち北林委員と森園委員が所要のため欠席。本ファンドは北嶋委員、鶴木委員、藤原委員、沼倉委員、高村委員（富岡委員の代理）の5名が審査に当たった。三国こども震災支援ファンドは本ファンド選考委員に三国商事社長三國氏が加わって6名で、また東日本大震災避難者支援応援ファンドは本ファンド選考委員に加えて秋田県被災者受入支援室長佐藤氏が加わって6名で審査した。

本ファンド10万円コースと、東日本大震災避難者支援応援ファンド10万円コースは、書類審査と協議で決定することにした。30万円コースは応募が11件であったが、予め書類審査で7件を選び公開審査に進んでもらった。

当日のプレゼンテーションは本ファンド11件、三国こども震災支援ファンド2件で合わせて13件、各団体持ち時間は説明、質疑応答を含めて15分と限られていたが、スムーズに進行することができ、予定通り午後4時50分には、審査講評、結果発表をすることができた。

選考委員会で、今回の申請にはこれまでと少し異なって、コミュニティビジネスを指向した事業がいくつかみられるということが話題に上った。スギッチファンドの助成がこれらの事業にどう活かされるか期待を込めて見ていきたいと思う。



審査結果の発表と選考委員長による講評



採択されて記念撮影する若者たち

本ファンド

10万円コース

募集5件に対して4件の応募があり、書類審査と協議の結果3件が採択された。

団体名 NPO法人白瀬南極探検100周年記念会（にかほ市）
事業名 南極教室出前講座（講師派遣事業）

にかほ市金浦出身の白瀬臺を隊長とする白瀬南極探検隊の偉業及び探検思想を受け継いだ日本の南極観測と南極大陸の現状を広く子どもたちに伝えるために、県内小中学校に講師を派遣し南極出前講座を実施する。講師派遣については、南極探検隊長白瀬臺顕彰会及び南極OB会秋田支部と連携して実施する。白瀬を生んだ郷土への誇りを醸成し、子どもたちのフロンティア精神を培う。

団体名 AKISPO U-9 SUPER KIDS PROJECT AKITA（秋田市）
事業名 秋田の子供達の運動能力回復・向上を考える

将来の秋田を担う子供達のトレーニング環境の向上のため、スポーツ王国埼玉から講師を迎えて講習会を開催し、指導者の意識向上とスキルアップを図る。これを子供達への刺激と指導者の意識・指導スキルの向上に結びつけ、各チームに波及させていく。以って育成年代の基礎体力向上と秋田県のスポーツ指導の向上を促す。

団体名 一般社団法人秋田県聴力障害者協会（秋田市）
事業名 秋田県聴覚障害者防災学習会

東日本大震災以来、聴覚障害者の防災学習・訓練や災害発生時の誘導避難方法、また避難所等での情報確保の体制が大きな課題となっている。秋田県でも聴覚障害者の防災対策やその体制が後れを取っている。今回聴覚障害者防災対策中央本部委員を講師に迎えて講演会を開いて学習する。これを契機に、聴覚障害当事者、地域住民、ボランティア、関係機関等への防災啓発、組織的救援の連携を図る。

30万円コース

募集5件に対して11件の応募があった。書類審査で7件が公開審査に進み、プレゼンテーションの結果5件が採択された。

団体名 AKITA アマチュア DE ナイツ実行委員会（秋田市）
事業名 第5回 AKITA アマチュア DE ナイツ

県内に埋もれている若手パフォーマーの発表の場である「AKITA アマチュア DE ナイツ」をこれまで4回開催してきたが、新たな才能の発掘・育成、そして賑わいの創出に一定の成果を挙げてきた。平成26年9月28日、各大会の成績優秀者を集め、第29回国民文化祭・あきた2014県民参加事業として「AKITA アマチュア DE ナイツ」のグランド大会を開催する。その予選を兼ねて、第5回大会を開催し、グランド大会に向けて関係機関との連携を図り、事業効果を高める。

団体名 あきた冒険遊びfrog（秋田市）
事業名 冬の冒険遊び場プレーパーク事業

プレーパークとは、子どもたちが野外で自分たちのアイディアとスタイルで冒険遊びを楽しむことができる遊び場で、既に全国に約340ある。当団体は25年10月にはじめて秋田でプレーパークを開催した。今回外遊びが少なくなる冬に冒険遊び場プレーパークを八橋公園で開催する。雪の中で子どもたちに思いっきり遊んでもらい、また親子と一緒に遊ぶことの楽しさを体験してもらおう。学生や自衛隊、商工会議所など、多くのボランティアの協力を得て実施する。

団体名 光希屋（家）（大仙市）
事業名 足湯マッサージで地域交流&若者自立支援

ひきこもりの若者の社会復帰を目的として、本事業ではひきこもり当事者が高齢者を対象とした次の活動を行う。①高齢者の住宅を訪問し雪かきボランティアを行う
②高齢者のために薬膳入りの足湯で血行とリンパの流れを良くするマッサージをプロの指導のもとで実施する。ひきこもりの若者が、このような社会に貢献する活動、あるいは仕事をして給与を受け取る体験から、社会参加への一歩を踏み出し、ひいては仕事につなげることができるようになる。他方高齢者にとっても、若者をつながり外に出る機会とする効果が考えられる。

団体名 つちのあかりプロジェクト（秋田市）
事業名 「ペンギンズ×つちのあかり」交流展覧会 + 交流セミナー

「つちのあかりプロジェクト」は、秋田公立美術大学と秋田公立美術工芸短期大学の学生、社会人35人をメンバーとして、美術と福祉と教育をつなげる活動をしている。6月に障がいのあるアーティストの展覧会を開催する。「つちのあかりプロジェクト」一押しの秋田県在住の主に知的障害があるアーティストの作品と、障がい者の芸術活動に早くから取り組んでいる「NPO石巻広域クリエイティブアートの会ペンギンズアート工房」の主に知的障害のあるアーティストの作品を展示する。多くの人に作品に触れてもらい、その魅力を知ってもらうことを通して、地域において障がい者に対する共感と理解を広げていくことを目的としている。ペンギンズアート工房のメンバーを秋田に招き、両会のメンバーの情報交換、交流も行う。

団体名 NPO 法人あきた花咲く教師力ネット（秋田市）
事業名 親・子・教師で学ぶ特別支援基礎対応力アップ講座

秋田県内の教育関係者、保護者、児童生徒に対して、各種研修会、情報提供などを実施して、学校、家庭、地域の教育力向上を目的として活動する団体。今回は発達障害の子どもへの対応の仕方を学び理解するセミナーを開催する。第一ステージは、発達障害の子どもへの対応や子育て全般について学ぶセミナー、第二ステージは、発達障害の子どもたちとの体育・音楽教室、第三ステージは、第一、第二ステージで学んだことを活かし、保護者が企画運営する保護者参加型のセミナー。発達障害の子どもは、学校現場、家庭での対応で成長に大きな差がでてくる。セミナーを通して、保護者や教師が子どもへの接し方を向上させ、子どもが褒められ認められ自信をもつことで自尊心が高まるようになることが期待される。

50万円コース

募集1件に対して4件の応募があった。
4件の書類審査とプレゼンテーションの結果、
1件を採択した。

団体名 NPOヒューマンネットワークあきた（秋田市）
事業名 Let's join job's joy!!

不用品・遺品の回収、整理を受託し、その回収品の選別、クリーニング、修理とリサイクル品の店舗販売を、生活保護受給者、生活困窮者、障害者に担当させて行う。彼らのジョブトレーニングには、中高年ボランティアに自身の持つスキルを活用して参加してもらおう。保護受給者、生活困難者に社会参加のよろこびと自信を引き出し、実践的なトレーニングを行うことで自立支援・就労支援となる。また中高年者にはボランティアとして参加してもらおうことで、生きがいつくりと社会貢献活動の促進になる。新しいソーシャルファームの試み。

冠ファンド 三国子ども震災支援ファンド

30万円コース

団体名 秋田避難者おやこの会（秋田市）
事業名 避難者おやこの遊び場、学び場、しゃべり場

福島第一原子力発電所事故をきっかけに、秋田に避難してきた親たちで団体を作り避難当事者が主体になって次の事業を行う。

- ・畑を借りて、ここをフィールドに子どもたちが農作業や遊びを通してコミュニケーションを図ると共に、農作物や食に対して関心を高める機会とする。地元の学生、シニアボランティアにも参加してもらい、交流を広げていく。
- ・食品の放射生物質の測定。
- ・子育て不安の解消、良好な親子関係の構築などを目的に勉強会を開催する。
- ・病気の早期発見、不安解消のため、検査、医療体制を作る。

避難生活の長期化が予想される中、地元の人たちとも交流を深め、親子が安全で楽しく快適に暮らせることをめざす。

団体名 福島子ども保養基金（にかほ市）
事業名 のんびりわくわく保養プロジェクト！2014夏

放射線の不安からこどもの自由な外遊びが制限されている福島県の親子を対象に、学校の夏休みを利用した秋田での一時保養を実施する。福島県在住の親子35名程度の参加を見込んでいる。

7月27日から8月7日までの間に、海水浴、カヌー体験、野山での外遊び、自然工作など、地元の人たちとも交流しながら、また高校生、大学生のボランティアの協力も得ながら、活動する。放射線の影響のない秋田県でのびのびと過ごし、心身のリフレッシュをしよう。

東日本大震災避難者支援応援ファンド

10万円コース

団体名 NPO 法人あきたシニアクラブ（秋田市）
事業名 東日本大震災避難者お出掛け支援事業

交通手段を持たない、あるいは秋田に不慣れな避難者の、病院、買い物、役所など生活に必要な外出を支援する。1回半日以内、概ね20～30kmの範囲で送迎する。送迎を通して避難者との交流も生まれる。この事業により、孤立や不安を防ぎ、秋田での暮らしをより快適なものにすることができる。

団体名 NPO 法人あきたパートナーシップ（秋田市）
事業名 福島の話聞いて、秋田でできることを考えよう

東日本大震災からまもなく3年、被害の風化が進みつつあるが、もう一度被災地の現状を再認識し自分たちに何ができるか再考する必要があるのではないかと。2月1日に、福島県浪江町の復興推進課長を招いて、秋田の市民活動団体、自治組織等を対象に震災と原発事故の現状について講演して頂く。秋田でどんな支援ができるか、原発とエネルギー問題の将来について考える機会とする。

2月2日には、浪江町の復興推進課長、秋田弁護士会所属の弁護士を交えて福島県からの避難者交流会を行い、不安解消や問題解決の糸口を探る。

スグッチファンド助成金はどう活かされていますか

第8回本ファンドで 500,000円助成

草生津川ふれあい公園づくり

NPO法人花と嵐のまち・ネット
秋田市八橋 理事長 小松 健

目的

県等が所有する草生津川河川敷(遊休地)を、NPO・行政・企業・市民のパートナーシップ体制によって、多目的公園として整備し、地域コミュニティの拠点とするとともに、自然環境・歴史文化・八橋油田などの豊かな地域資源を活かした野外学習や、交流・観光のスポットとして活用する。



草生津川ふれあい公園

結果

整備事業は完了し、平成25年7月7日に開園式典を行った。県及び国際石油開発帝石㈱と信頼関係を構築した上に、秋田市環境部、教育委員会とも連携を図ったことで、NPO・行政・市民のパートナーシップの確立が進み、事業は順調に運んだ。地元の小学校、町内会をはじめ訪れる市民など各方面から歓迎の言葉が寄せられており、公園活用への期待の大きさが感じられる。今後も、創意工夫と先見性のあるプランを企画し、利活用を進めていきたい。



開園式の様子

第9回本ファンドで 100,000円助成

自分らしく生きるために ～アサーティブ・コミュニケーション講座～

あきたAT研究会 会長 高橋 静子

目的

アサーティブとは、「自分を一步前に押し出す、前向きに率直に自分を表現する」という意味。コミュニケーションに関心のある方、相談員やケースワーカー、看護師、保健師、教師など対人援助活動をしている方たちに、アサーティブ・コミュニケーションを学んでもらうことで、住みよい地域、働きやすい職場になることをめざす。



ロールプレイで学習

結果

大阪のエンパワメントセンターのアサーティブネストレーナー中川和子氏を講師に迎え講座を実施。参加者48名。参加者からは、講義とロールプレイを通して、自分の気持ちをしっかり伝えることやお互いを尊重しながら、前向きなコミュニケーションへ一歩踏み出すきっかけになったという感想が多かった。